

# ひまわり苑 便り

秋田

第100号

平成23年10月25日発行（年4回発行） 発行人 管理者 笹川累利子

〒010-0401 秋田県男鹿市野石字大場沢下1-11 TEL 0185(47)2311 FAX 0185(47)2220

Eメールアドレス：wakafuku@beach.ocn.ne.jp URL：http://www15.ocn.ne.jp/~wakafuku/



**猛威を振るった台風15号が去った後  
オータムレクで元気回復！  
久しぶりに大きな声で盛り上がりました。**

（オータムレク詳細は次号にて紹介します。）

おかげさまで100号です

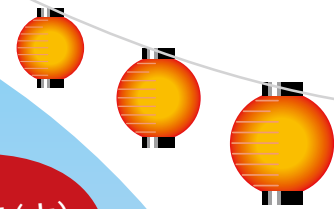
管理者 笹川 累利子

爽やかな秋晴れの下、利用者さん達と職員が交わす元気な声に喜びを感じながら、この原稿に向かっています。

さて昭和63年6月30日に「ひまわり苑便り第一号」が素人集団の初仕事として（編集後記抜粋）誕生してから、ついに100号の発行を迎えることができました。これまでの苑便りを振りかえると、職員の資質向上を意図した編集委員の度々の異動で、各号の内容に編集者の特徴が如実に表れています。しかしいずれの号も仲間達の汗と笑顔が紙面に踊り、当苑の歩みを語っています。あらためて苑便りはひまわり苑の歴史書であると自負しています。

第一号発刊の挨拶で故香曾我部宏初代理事長は「苑便りを通して皆様との絆が一層深まるように念願する」と述べています。まさしく苑便りの目的はここにありとの思いを新たに、これからも仲間達の生き生きとした生活をホームページとは違う視線でお届けできるように頑張ります。

何卒、ご高覧いただけますようお願い申し上げます。



# 夏まつり

8月25日(木)

ひまわり苑  
イベント広場

雨雲が居座り開催が危ぶまれましたが、開始時刻の頃には  
青空に変わり、太鼓の音を合図に踊りの輪が広がりました。



みんなで食べて  
笑って 踊って  
またひとつ  
夏の思い出が  
増えました!!





利用者、支援員からなる太鼓チームが誕生しました。その名も“海鳴り”。今回の夏まつりでも太鼓をたたいてもらいましたが、10月30日（日）開催予定のひまわり苑祭でも演奏いたします。

みなさん、乞うご期待!!



誕生!!

## 太鼓チーム “海鳴り”



### 裏方さん紹介

作業中の職員は佐藤康久主任支援員です。

ことのほか暑かった今夏、夏まつりに間に合わせようと、連日利用者支援の傍ら、太鼓台の製作に励みました。もともと器用な佐藤主任、玄人はだしの腕前で立派な〈作品〉が完成しました。

# 第9回 秋田県障害者スポーツ大会

9月3日、秋田市の陸上競技場を会場に行われた陸上競技に7名、フライングディスクに1名が出場しました。  
また9月17日のボウリング競技には6名が出場し、それぞれ数多くのメダルを獲得する事が出来ました。



## ボウリング

銀メダル 北川勝一

銅メダル 前川悦子、林 淳子



## 陸上

銀メダル 金子貴博(100m走)、大野 博(400m走)

銅メダル 野見山徹(50m走)、岡崎 誉(50m走)



## フライングディスク

銅メダル 伊藤清一



## 社会福祉法人 役員研修会

第1回 7月22日

第2回 8月2日

会場 秋田県社会福祉会館



社会福祉法人の“経営上の課題と信頼性の高い経営”を目的とした研修に、当法人からは監事の渡部景信さん、三浦昭一さんが参加いたしました。

2回にわたり、

- ・「就業規則の整備状況と整備の重要ポイント」
- ・「実例にみる労使紛争」
- ・「実例にみる労使紛争から学ぶ」
- ・「資金収支と事業活動収支、新会計基準について」
- ・「指導監査の現場からみた社会福祉法人運営の問題点」
- ・「事例でみる社会福祉法人のリスクマネジメント」

という講義を受講しての感想をいただきました。

### 〈渡部景信さん〉

今回の研修会は、コンプライアンスからの就業規則の整備とその問題点が主体でした。驚いたことに法人によってはまだ就業規則がなかったり、あっても内容が不十分であったり、成熟した法人からみれば“なぜ”という疑問が感じられました。

しかし、東日本大震災や原発事故問題等社会環境の急激な変化によって、特に時間外勤務、労働紛争、解雇、事故、事件等想定しえない問題が発生することは十分に考えられることであり、当法人としても、それらに対処する適切な対策をとるため、現行就業規則を精査見直し、不備があれば修正する必要があると感じました。

### 〈三浦昭一さん〉

労働紛争に関して、経営者側からの切実な報告に対し、どうして紛争が起きたのかよりも、今後どうすれば再発防止につながるのか、最終的には法廷の裁きを受けることになるであろうが、それまでの過程で心労で業務の低下、時間と費用がかかることから、早めに弁護士に相談した方が得策だという助言は活きているようである。

トラブルが生じたとき、法人としては窓口の一本化により無用なトラブル拡大を防ぐとともに、誠意ある行動を示すことが肝要。また、高齢者の転倒事故、骨折事故が増えてきており、職員の不手際がなくても法廷に持ち込まれるケースがあると聞き、防止のためのマニュアル作り、職員の共通理解と行動、そして必要に応じて職員への教育指導が必要ではないかと痛感しました。



秋田のお米は美味しいっていつも好評です。



久しぶりに家族と一緒に御飯は会話も弾んでいました。

昼食



笑顔のお土産を持ってきてくれました。



笑顔でお母さんと過ごす事が出来ました。



出会い



6月5日に保護者面会バスツアーが行われました。一緒にゲームをしたり昼食を取ったりと楽しい時間を過ごしました。

別れ



寂しいけれどお別れも元気いっぱい手を振りました。旗も元気いっぱい振っていました。



また来年も会いに来てねー！



ゲーム

今年のゲームも避難訓練借り物競走…。ボードに書かれた非常持ち出しを抱えてダッシュです！



天候にも恵まれイベント広場には歓喜の音が響きました。



7月12日 秋田県立体育館にて

スポーツ交流会は、綱引きや大玉転がしなど誰でも行えるようなゲームが用意され当苑でも大人気です！

中央地区施設交流スポーツ大会

晴天の6月7日、秋田市向浜球場にて元気いっぱい白球を追いかけてきました。  
残念ながら二連敗となってしまいました。残念ながら、全力を出し切った顔はとも満足げでした。  
また、ピッチャーとして活躍した眞壁さんがMVPを獲得しました。



試合結果

ひまわり苑 VS 大日寮  
3 - 19  
ひまわり苑 VS 水林新生園  
8 - 12



中央地区施設交流ソフトボール大会

演奏者は秋田市にてギター教室も開いているプロの演奏者、舟橋瑞郎さん。  
馴染みのS.M.A.Pの曲からラテン系の曲、童謡まで幅広いレパートリーでギターの音色に心奪われていました。  
今回は、苑行事にいつも来苑してくださる三浦スエさんの紹介で開催することができました。



9月7日 ひまわり苑体育館にて

ギター演奏ボランティア



8月17日 ひまわり苑ホールにて

帰省する事ができなかった利用者さんもゲームや食事で楽しみました。

未帰省者レクリエーション

今年4月から個々に合った食事の提供を目的とする栄養ケア・マネジメントが始まった。苑では多職種が情報を共有し利用者の健康状態、喫食状況を常に把握しながら疾病の改善と予防に取り組んでいる。また高齢化が進む中、嚥下困難な利用者も増えているので誤嚥防止の為にスライス食や、とろみ剤を使用。毎日の食事は飽きが来ないように旬の食材を取り入れ季節感を出したり、自分たちで収穫した農作物を使う事で残食を減らしバランスの取れた食事を提供している。

栄養士 山内エミ子

利用者の栄養ケアについて

「タンタラリラ、ランランラン……」  
「Oさん、もう作業の時間になっちゃったよ。ご飯もまだだよ。」彼の時計はいつたい今、何時なんだろう？  
「ピンポン、ピンポン」「Oさん、ご飯ですよ」  
Oさんのベッド脇の壁にチャイムのボタンが四つある。メロディーはメヌエットなど四種類、それぞれ起床、食事、作業、入浴の主な日課に対応している。自閉症でこだわりが強く日課に乗れない彼への個別支援目標の一つとしての取り組みである。絵カード等いろいろ試行錯誤し現在に至っている。

「いま、何時？」

第一支援次長 佐藤 昭博

今年度から新体系に移行しこれまで以上に利用者個々のニーズに対応したより細かな個別支援計画が求められている。そのなかでの取り組みの一つを紹介したい。

手書き原稿からスタートし、ワープロやパソコンを使いこなし(？)、紙面はモノクロからカラーへと変わる。メンバーの足手まといにならぬよう、固い思考回路を思いっきり柔らかくし、編集にあたる。

編集後記

甚だ失礼な言い方ですが、出来映えよりも、とにもかくにも一仕事終えたという安堵感しかなかった頃が懐かしく思い出されます。編集委員としてはすっかり古株の部類になってしまいましたが、今後も利用者みなさんのおびきり笑顔、たくさん、たくさんお届けしたいと考えています。(小一)

先日、広報誌編集に関する研修会に参加させて頂いた後の苑便り発行。しかも100号の記念となる事でしたが結局は目立った変化の無いまま発行…。アイディアや決断力の無い自分に少し落ち込んでいます。

研修会では持ち寄った各施設の広報誌に感想を言い合う時間も設けられ、ひまわり苑便りに対しても感想を聞く事が出来ました。講師の方が話された「広報誌は、利用者さん、保護者の方々という熱狂的なファンのお陰で成り立っている」という言葉を忘れずにこれからも見やすい、分かりやすいをモットーにした苑便りであるようにがんばりたいと思っております。(小一)